

評価シート（年度評価）

名古屋市港防災センターの管理運営状況

1 基本情報 <所管局:防災危機管理局>

指定管理者	丹青社・コニックス共同事業体		
主な業務内容	名古屋市港防災センターの管理運営		
評価対象期間	令和6年4月～令和7年3月	指定管理期間	令和5年4月～令和10年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項
1 基本事項	(1) 平等利用	市民の利用にあたって不公平が生じていないか。	○	
	(2) 開館の実績	利用日・利用時間が遵守されているか。	○	
	(3) 情報管理	情報の管理・保護が適切になされているか。	○	
	(4) 職員体制	職員の配置、勤務実績、労働環境等は適切か。	○	
	(5) 法令等の遵守	法令、協定書等を遵守しているか。	○	
	(6) 事故・災害等への対策・対応	事故・災害等発生時の対策・対応が行われているか。	○	
2 維持管理	(1) 建物・設備の保守点検	建物・設備が適切に管理されているか。	○	
	(2) 警備業務	安全で安心感のある環境を確保しているか。	○	
	(3) 清掃業務	利用者が快適に利用できるような状態が保持されているか。	○	
	(4) 備品の管理	備品が適切に管理されているか。	○	
3 サービス	(1) 利用実績	当初の目標通りの利用実績を挙げているか。	○	・館内やイベントの様子がわかる写真を活用した SNS など積極的に広報を行った。 ・利用者へのアンケート調査では 9 割以上の方が防災意識が高まったと回答している。
	(2) 事業実施状況	計画通り事業が実施されているか。	○	
	(3) 広報・PR の実施	利用促進のための取組みを実施しているか。	◎	
	(4) 接客態度	接客態度、名札、服装等は適切か。	○	
	(5) 苦情・要望の把握・対応	利用者の意見、苦情を受けて、迅速に対応できているか。	○	
	(6) 利用者満足度	利用者の満足度を把握し、必要に応じて対応しているか。	◎	
4 経費等	(1) 執行状況	指定管理料の執行等は適正になされているか。	○	
	(2) 収支状況	当初の予定通りの収支状況になっているか。	○	
	(3) 再委託	再委託の方法は適正か。	○	

【総合評価】

所管局のコメント・特記事項等
適切な管理運営がなされていた。 外部連携イベントの実施に加え、令和6年1月に発生した能登半島地震や、発生から60年が経過した伊勢湾台風など、機会を捉えた企画展を実施し、幅広い客層の関心と呼びこむ工夫を行った。また、南海トラフ地震臨時情報発令後に増加した来館者や問い合わせへの適切な対応も評価できる。

施設の現状

名古屋市港防災センター

施設の現状	施設概要							
	防災に関する知識の普及・啓発及び市民の防災意識の高揚を図るとともに、大規模災害発生時における災害応急活動の拠点施設とするため設置された施設です。 具体的には『地震体験室』、『煙避難体験室』、『伊勢湾台風を知る・南海トラフ巨大地震発生！の3D映像コーナー』などの体験・展示施設を活用して、防災知識の普及・啓発を推進するとともに、食糧等の備蓄庫など、大規模災害発生時における災害対応活動の拠点施設としての機能も有しています。							
	市の収支状況(千円)（6年度決算(見込)額）							
	支出			収入				
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	利用料金
	56,243		56,243	13	42	56,188	56,243	
	特記事項							
管理運営指標の状況	取組状況							
	指標		単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	利用者数		人	22,439	42,567	54,768	63,586	
	出張講話の開催回数		回	44	47	37	34	
	講習室等の使用状況		回	19	17	33	26	
	特記事項							
	・令和3年度と令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、同時刻の館内滞在人数や館内滞在時間、コンテンツの同時体験人数を制限して運営した。 ・令和6年度の利用者数は63,586人で、令和5年度の54,768人と比較すると、8,818人増となった。能登半島地震の発生や南海トラフ地震臨時情報の発令などにより、災害や防災に関心を持つ人が増え、個人・団体ともに来館者が増加している。							

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費等を記載